

contents

家庭での未就学児に対する性教育の実態とは…… 1	性教育の現場を訪ねて⑥…… 8
いつきの“ヒューマン・ピーイング”⑪…… 6	今月のブックガイド…… 10
多様な性のゆくえ⑧…… 7	JASEインフォメーション…… 11

家庭での未就学児に対する性教育の実態とは

「2021 年全国おうち性教育実態調査」より

武蔵大学教授 林 雄亮

調査の目的

今日、家庭での性教育の実践を説く動きが活発化し、書籍の刊行も相次いでいる。個別の書籍名は挙げないが、インターネット上の書店サイトで「性教育」というキーワードで検索してみれば、読者もその多さを容易に理解できるだろう。家庭での性教育が活発化している背景には、包括的性教育が広がっている国際的な潮流とともに、学校性教育の不十分さに対する懸念、子どもを性犯罪から守らなければならないという親の使命感と、性的マイノリティへの社会的な理解やジェンダー平等への関心の高まりがあると推測される。

家庭での性教育に注目が集まる中で、その実態、すなわち、いつ、誰が、何を、どのように教えているのかということは各家庭の中で行われているということもあり、いわば「ブラックボックス」の状態である。そこで筆者らの研究グループ（筆者のほか土田陽子氏

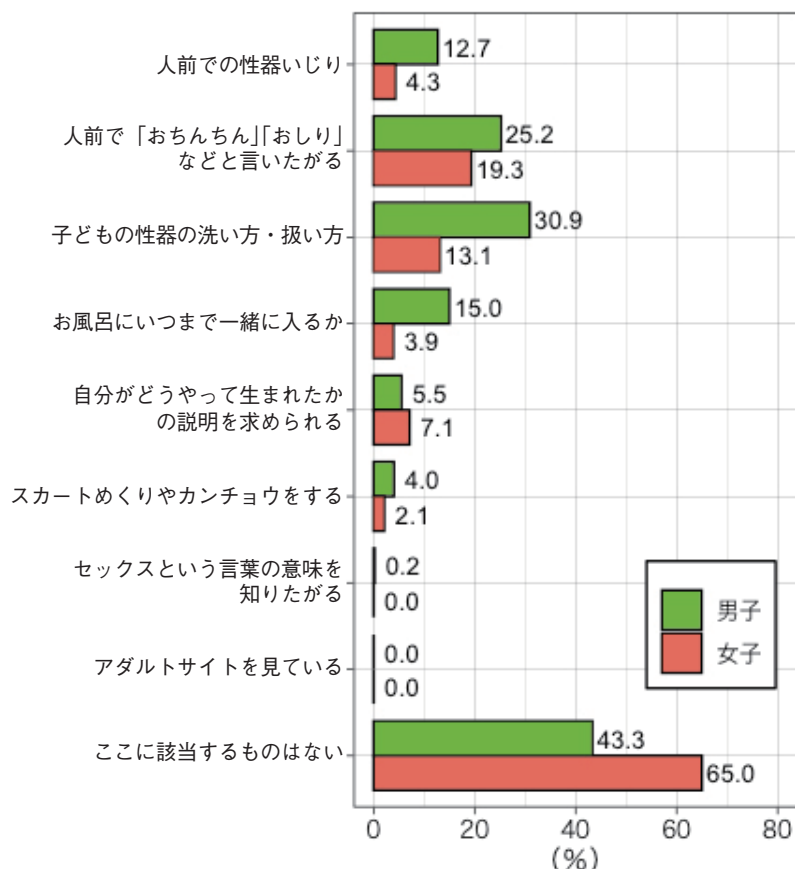
(帝塚山学院大学教授)、石川由香里氏(活水女子大学教授)、苫米地なつ帆氏(大阪経済大学講師)、俣野美咲氏(東京大学助教))は、2021年8月に「2021年全国おうち性教育実態調査」と題する定量的なインターネット調査を企画・実施した。

本調査の具体的な目的は、第1に、家庭での性教育がどのように実施されている(いない)のか、そして、子どもに対する性教育について親がどのような意識を持っているのかを明らかにすることである。第2の目的は、家庭で行われている性教育のあり方や、親の子どもへの性教育についての意識が、親の社会経済的地位や夫婦の関係性、子どもの性別・出生順位等に応じてどのように異なるのかを検証することである。

調査の対象者と調査項目

以下では本調査の概要を紹介し、その結果のうち、未就学児に対する性教育についての基礎的な知見を示

図1 子どもの行動で困った経験（複数選択）



すこととする。本調査の対象者は、日本国内に居住する子どものいる1971年から2000年生まれの女性である。調査委託先の調査モニターに登録している個人のうち、調査への協力に応じた2600名から回答を得よう計画し、2021年8月のある1週間で予定を超える合計2969名から回答を得た。ここから回答時間が極端に短いケース、回答内容が明らかに不適と判断されるケースを除外し、結果として2785名の回答を有効票とした。

本調査では家庭での性教育の実施状況、性教育に関する意識などを尋ねる独自の項目を多く含む調査票を作成した。また、性教育の実施状況等については最も年長の子どものみと年少の子どもの2人分の情報を得る設計とした。回答者や配偶者、子どもの基本属性のほか、性教育や性に関する調査項目は以下の通りである。

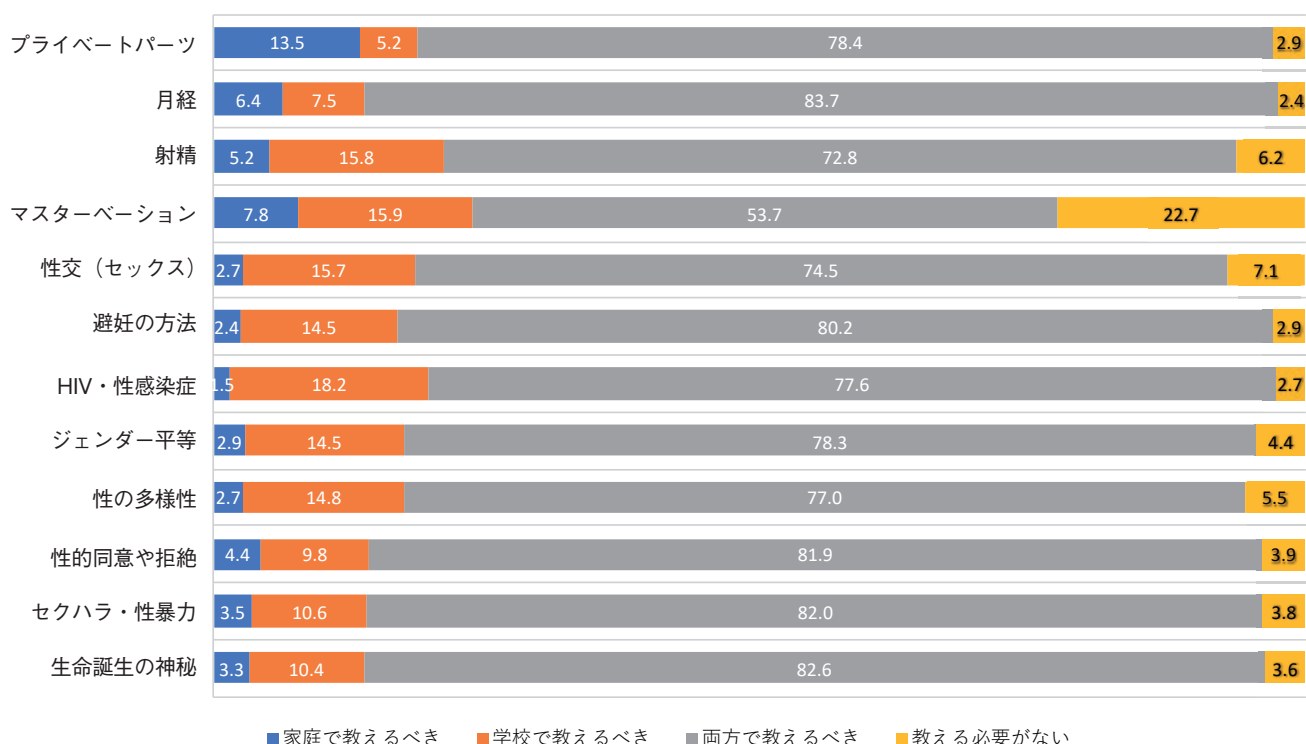
- (1) それぞれの子どもとのふだんの会話の状況
- (2) それぞれの子どもの行動について、困った経験があるか
- (3) それぞれの子どもについて、今までに教えたことのある性教育のことがら
- (4) それぞれの子どもは、親の言うことをよくわか

ってくれるかどうか

- (5) それぞれの子どもの性に関する権利を重要だと思うかどうか
- (6) ふだん子どもの性に関することについて、インターネットやSNSで情報を調べることがあるか
- (7) さまざまな性教育のことがらについて、家庭と学校のどちらで教えるべきだと考えるか、または教える必要がないと考えるか
- (8) さまざまな性教育のことがらについて、いつ頃教えるべきだと考えるか
- (9) 子どもが性交を経験するにあたって必要なことは何か
- (10) 自分が学校で習った性に関することがらが役に立ったと感じているか
- (11) 子どものさまざまなことがらについて相談できる相手や機関は何か
- (12) それぞれの子どもに対して、配偶者に教えてほしいことがらは何か

以下では、有効票である2785票のうち、第1子が調査時点で未就学児であるケース（n=939）に限定し

図2 家庭と学校のどちらで教えるべきか



て分析を行った結果を示す。

子どもの行動で困った経験

はじめに、子どもの行動で困った経験があるかどうかを尋ねた質問の回答を見ていこう（図1）。質問文は「あなたは1番上のお子さんについて、次のようなことで困ったことはありますか」というものであり、選択肢として（1）人前での性器いじり、（2）人前で「おちんちん」「おしり」などと言いたがる、（3）子どもの性器の洗い方・扱い方、（4）お風呂にいつまで一緒に入るか、（5）自分がどうやって生まれたかの説明を求められる、（6）スカートめくりやカンチョウをする、（7）セックスという言葉の意味を知りたがる、（8）アダルトサイトを見ている、（9）ここに該当するものはない、を設けた。回答は複数選択方式である。

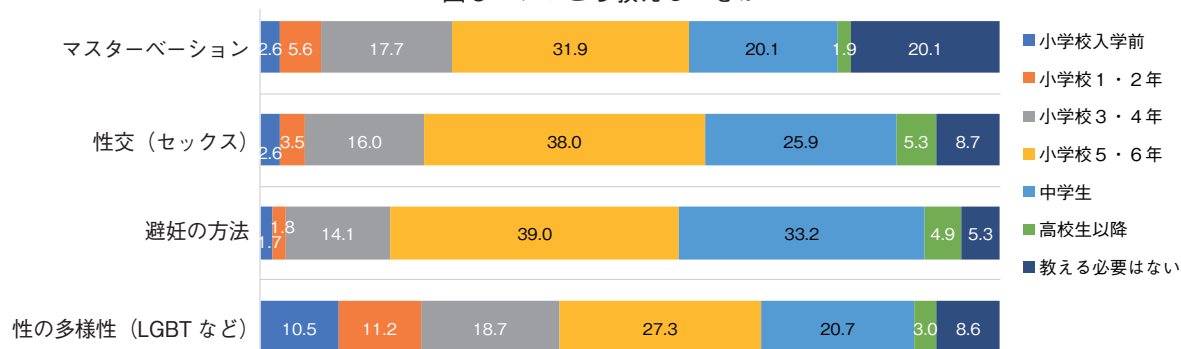
母親から最も多く挙げられた項目は、子どもが男子の場合は、子どもの性器の洗い方・扱い方、子どもが女子の場合は、「おちんちん」「おしり」などと言う行動であった。2番目の項目はその逆となっており、3位以降で1割を超えるのは男子で人前での性器いじり、お風呂にいつまで一緒に入るかの2項目で、女子では1割を超えるものは他になかった。総じて子どもが男

子の場合にこれらの項目が挙げられることが多いようで、該当するものはないという回答も、男子より女子の割合が高くなっており、母親と息子という異性同士の関係であることも影響していると推察できる。

家庭と学校のどちらで教えるべきか

次に性教育のさまざまな内容について、家庭と学校のどちらで教えるべきかを尋ねた質問の回答を見てみよう（図2）。質問文は「あなたは、次のそれぞれのことについて、家庭と学校のどちらで教える必要があると思いますか」というものであり、選択肢として「家庭で教えるべき」「学校で教えるべき」「家庭と学校の両方で教えるべき」「家庭でも学校でも教える必要がない」の4つを用意し、単一選択方式で回答してもらった。性教育の具体的な項目は、（1）プライベートパーツを大切にすること（口・胸・性器・お尻などを他人にさわらせない、他人のそれらを許可なくさわらない）、（2）月経、（3）射精、（4）自慰（マスターベーション・オナニー）、（5）性交（セックス）、（6）避妊の方法、（7）HIV／エイズや性感染症（性病）、（8）ジェンダー平等、（9）性の多様性（LGBTなど）、（10）性的な行為に対して自分の意思を示す（同意や拒絶）

図3 izzoo教えるべきか



こと、(11) デートDV・セクハラ・性暴力、(12) 生命誕生の神秘・奇蹟・尊さなど、の12個である。

結果を見ると、すべてのことがらについて多数派は「家庭と学校の両方で教えるべき」であり、最もその割合が低いマスターベーションでも過半数となっている。それ以外の項目では、7～8割の回答者が「家庭と学校の両方で教えるべき」と考えている。またプライベートパーツのみ、「学校で教えるべき」という回答より「家庭で教えるべき」という回答が多くなっている。プライベートパーツがこのように家庭で教えるべきだとされる背景として、プライベートパーツが未就学児に対する教育内容と考えられており、小学校入学前に教育を行うのが一般化していることが挙げられるだろう。

izzoo教えるべきか

図3は、性教育のそれぞれの内容について、izzoo教えるのが適切だと考えられているのかを尋ねた質問の回答である。「あなたは次のそれぞれのことについて、izzoo教えるのが適切だと思いますか」という質問文を用いて、(1) 自慰（マスターベーション・オナニー）、(2) 性交（セックス）、(3) 避妊の方法、(4) 性の多様性（LGBT など）の4項目について意見を尋ねた。選択肢は「小学校に入学するまでに」「小学校1・2年の頃」「小学校3・4年の頃」「小学校5・6年の頃」「中学生の頃」「高校生以降で」「特に教える必要はない」の7つを用意した。

いずれの項目についても、小学校5・6年または中学生の頃に教えるべきだと考えられている割合が多くなっている。性の多様性については他の項目と比較して回答の分散が大きく、小学校3・4年生までに教えるべきという回答も約4割存在している。

家庭で教えたこと

次に、実際に家庭で教えたことがある性教育の内容を確認する（図4）。「あなたが1番上のお子さんに、今までに教えたことがあることがらを全て選んでください」という質問文と、選択肢として、(1) プライベートパーツを大切にすること（口・胸・性器・お尻などを他人にさわらせない、他人のそれらを許可なくさわらない）、(2) 月経、(3) 射精、(4) 自慰（マスターベーション・オナニー）、(5) 性交（セックス）、(6) 妊娠のしくみ、(7) 避妊の方法、(8) ジェンダー平等、(9) 性の多様性（LGBT など）、(10) SNSの安全な使い方、(11) デートDV・セクハラ・性暴力、(12) この中に当てはまるものはない、を設けた。回答は複数選択方式である。

未就学児に対しては男女ともに3割前後の家庭でプライベートパーツについて教えた経験があることがわかる。次に教えた経験が多い項目は月経だが、その割合は男女ともに1割前後に留まっている。その他の項目については5%に満たず、ほとんどの家庭で教えられていない。また、この中では何も教えたことがないという割合は6割を超えている。

配偶者から子どもに教えてほしいこと

最後に、母親が配偶者（夫）から子どもに教えてほしいと考えている項目について見てみよう（図5）。図4に挙げた項目のうち、妊娠のしくみとSNSの安全な使い方以外を対象として、複数回答方式で尋ねた。配偶者（夫）には射精、マスターベーション、性交（セックス）、避妊の方法を男子に教えてほしいという回答が多く、子どもの性別による違いも大きいことが

図4 家庭で教えたこと（複数選択）

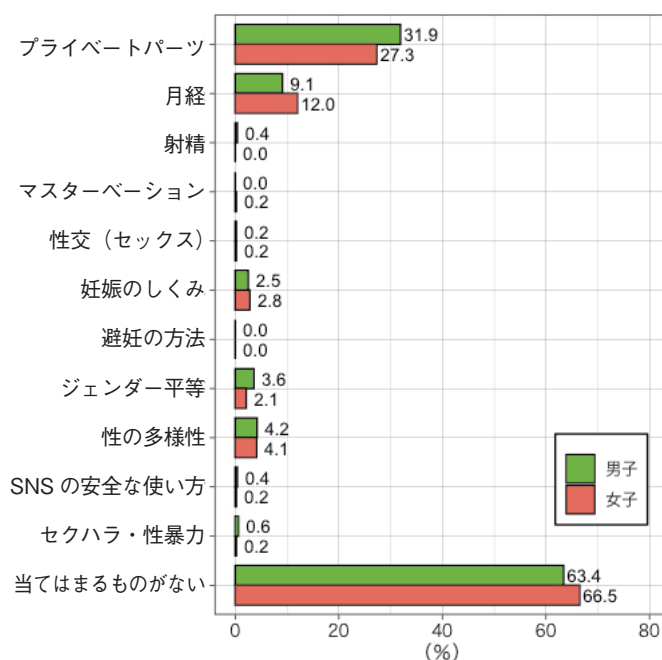
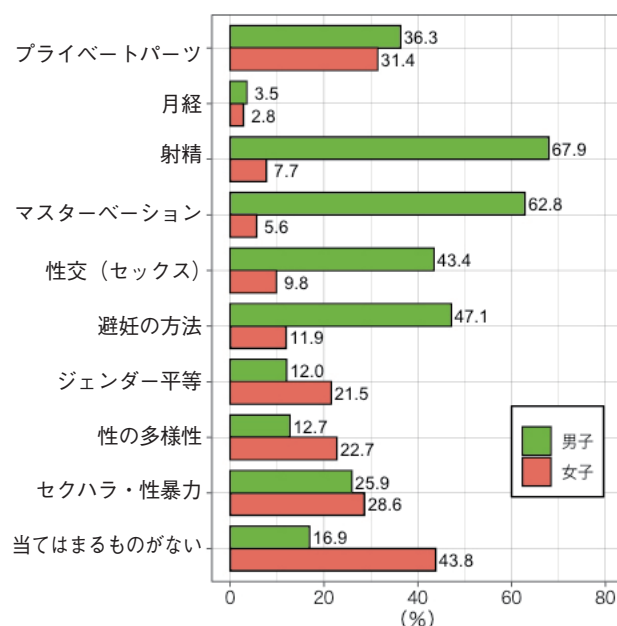


図5 配偶者から子どもに教えてほしいこと（複数選択）



わかる。そして、男子に対しては父親からの性教育が期待されているようである。

以上、家庭における未就学児への性教育の実態について、「2021年全国うち性教育実態調査」の結果を紹介してきた。今後、研究グループでは詳細な分析を行い、各方面で結果を報告していく予定である。ご関心のある方はぜひ情報をフォローしていただきたい。

〈謝辞〉 本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究B：2019～2021年度「青少年の性行動・性意識の変化・メカニズムに関する総合的研究と性教育への展開（19H01572）：研究代表者・林雄亮」の助成を受けたものである。

〈付記〉

本稿は、林雄亮・土田陽子、2022、「家庭での性教育の実態と課題——「2021年全国うち性教育実態調査」の基礎分析」『季刊セクシュアリティ』106号（2022年4月刊行予定）の内容を大幅に縮小し、簡略化したものである。

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約6万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧】 必ず事前に電話で予約が必要です（tel 03-6801-9307）。貸出業務は行っておりません。

【開室日・時間】 しばらくの間、月～金曜日 11：30～16：30

【休室日】 土・日曜日、祝日、年末年始 ※この他、会議等で臨時に休室することがあります。

【コピーサービス】 コピー料金は用紙サイズにかかわらず1枚10円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。

<https://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html>

資料室 利用方法

収集文献・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー（自然科学系、人文・社会学系）、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際（海外団体資料・海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイヤモンド文庫、ほか。

<https://www.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi>

いつきの“ヒューマン・ビーイング”

人権について考える ⑪

ふたつのキーワード

土肥いつき

京都の公立高校教員。24 時間一人パレード状態のトランス女性。趣味の交流会運営で右往左往する日々を送っている。

今号では、「普遍的な人権」がはじまる「小さな場所」を具体化するキーワードに「助けて!」と「あかんのちゃうん!」を選んだ理由と、そこに込めた思いを書くことにします。

わたしは数学の授業中、「問いを解く時間はしゃべってもええで、立ち歩いてもええで」「頭で解けなければ、口で解け。身体で解け」と言います。なぜなら、数学が苦手な子がひとりで考えても解けるわけがないからです。すると、けっこうみんな動きまわって教えあいをしているのですが、ある時、ほんとうに数学が苦手な子が動いていないことに気づきました。「教えて」のひとつが言えないのです。それはなぜなんだろうと考えました。もしかしたら、そこには「教えて」のひとつを言いたくないプライドがあるのかもしれないと思いました。そういうプライドはジャマなので捨てればいいと、わたしなら考えます。しかし、数学が苦手な子にとっては、だからこそ、そのプライドは捨てられないのかもしれないと思いました。どうすればいいんだろうと思っていた頃、たまたまある障害がある人からこんなことを言われました。「車いすの人がまわりに手伝ってもらって目的地に行くのはかまわないのに、知的障害の人がまわりに手伝ってもらって問題を解くのはなぜダメなんだろう」。

この言葉は衝撃的でした。自分がいかに「学力」を個人のものとして捉えていたのかがわかりました。それ以来、「問題が解ける人間は、そのスキルを独り占めするな」と言うようになりました。

こういう話をするようになって、授業風景が少し変わった気がします。年度のはじめのうちは互いに牽制しあうような雰囲気か漂っているクラスも、年度が進行するにつれ、数学が苦手な生徒が顕在化し、その子に数学を教える生徒があらわれるようになりました。

「助けて!」というキーワードは、このような経験から考えたものです。まずはじめに子どもたちに「『助けて!』は負けの言葉ではない」ということを強調します。すると、多くの生徒たちから驚きの感想が

返ってきます。きっと、生徒たちは小さい時から「人の手を借りずに自分でやれるようになること」をめざすことを要求されてきたんだろうと思います。だから、わたしは「助けて!」は自分がしんどい場所に置かれてることをアピールする言葉であるということを、まず伝えます。ただ、「助けて!」はそれだけでは言えません。例えば、端から見たらいじめられているとしか思えないにもかかわらず、本人は「友だちからいじられてるだけ」ということがあります。つまり、「助けて!」という言葉を使うためには、自分が置かれた状況を把握し、それが理不尽であることを見抜く力が必要であるということも伝えます。

そこで必要となるのが、もうひとつのキーワード「あかんのちゃうん!」です。誰かが「助けて!」と言えるためには、それが言える人間関係や社会のありようが必要です。それを「あかんのちゃうん!」で伝えます。例えば、いじめの場面を前にした時、「自分はしない」ではなく「あかんのちゃうん!」と言うこと。その延長線上に、例えばヘイトスピーチ・ヘイトデモへのカウンターがあること、そしてその「あかんのちゃうん!」が社会を動かし、いわゆるヘイトスピーチ規制法の成立につながったことを伝えます。

そしてもうひとつ大切なことは「あかんのちゃうん!」を誰に向かって言うのかということです。例えば、ホームレスの人を前にした時、ホームレスの人に向かって言うのか、ホームレスを生み出す社会に向けて言うのかということです。もしもホームレスの人に向かって言うならば、それは自己責任を追及する社会であり、例えば世界人権宣言の「社会保障を受ける権利」が認められない社会をつくることになります。それに対して、「あかんのちゃうん!」を社会に向かって言う行為こそが、世界人権宣言に書かれた権利を保障し、「みんなが幸せな社会」をつくるための第1歩であることを伝えます。

次号では、1年生1学期にとりくむもうひとつの教材、「多様性ワークショップ」を紹介します。

多様な性 のゆくえ

One side/No side [58]

「ラブ吉先生」

あまり役に立ってはいないのだが、グローバルファ
ンド日本委員会（FGFJ）のニュースレター『FGFJ
レポート』の編集をお手伝いしている。

グローバルファンドは世界エイズ・結核・マラリア
対策基金という国際機関の略称であり、本部はジュネ
ーブにある。2000年の九州・沖縄サミットで、議長
国・日本が途上国の感染症対策支援の重要性を G8 首
脳に呼びかけ、それがきっかけの一つとなって2年後
に誕生した。今年で創設 20 周年になる。

FGFJの方は、そのグローバルファンドの活動を支
え、感染症分野における日本の国際貢献の強化をはか
る目的で 2004 年 3 月に発足した。『民間外交のパイ
オニアである（公財）日本国際交流センター（JCIE）
のプログラム』として運営されている。

グローバルファンドの活動は、世界の三大感染症と
言われるエイズ・結核・マラリアの対策への資金的な
支援が中心なのだが、そのためには当然、途上国の保
健基盤強化にも力を注ぐ必要がある。

新型コロナウイルス感染症 COVID-19 のパンデミッ
クに世界が動揺する中で、いち早く途上国支援の対応
に動き出したのもグローバルファンドだった。FGFJ
の活動の最末端でお手伝いをする立場からは、21 世
紀の入り口で、よくぞこんな国際機関が生まれてくれ
たと改めてその活動とノウハウの蓄積に感謝したい。

コロナの影響でレポートの編集も遅れがちだったが、
昨年 12 月に No.24 が発行された（下欄外アドレス参照）。

前置きが長くなってすいません。その No.24 に
FGFJ アドバイザリーボードのメンバーで、日本医療
研究開発機構（AMED）研究開発統括推進室の岩本
愛吉室長が『コロナ禍の中で迎えるエイズとの闘い
40 年』を特別寄稿している。エイズの症例が世界で
最初に報告された 1981 年 6 月からの 40 年をまとめ
たものだ。

岩本さんは厚労省のエイズ動向委員会の委員長や国
際エイズ学会（IAS）理事も長く務めた。医学面から
世界、そして日本のエイズ対策を俯瞰的にとらえるこ

とができるエイズ研究の第一人者だろう。

寄稿では治療の進歩を中心に 40 年の流れを 10 年
単位で振り返っている。1980 年代の病原ウイルス発
見、90 年代の強力な抗レトロウイルス療法開発など、
それぞれに研究上のブレイクスルーがある。私が感
心したのは 21 世紀に入ってからの治療の改善と普及、
平たく言えば治療薬の服用が容易になったことを前記
ブレイクスルーとほぼ同等に評価している点だ。

HIV 治療に必要な抗レトロウイルス薬はいま、1
日 1 錠の時代を迎えているという。つまり、以前はそ
うではなかった。

何種類もの薬を食後とか 1 日 2 回とか異なる時間間
隔で確実に服用し、しかも 1 錠につき 1 リットルもの
水を飲まなければならないこともあった。毎日続ける
のはかなり苦しい。そんなことも確認せず、いまは長
く生きていける薬があるのだから……などと書いてい
た新聞記者としては、改めて不明を恥じる思いである。
少し話が横道にそれるが、岩本さんは HIV/ エイズに
関心が高いゲイコミュニティの人たちから親しみを込
めて「ラブ吉先生」と呼ばれることが多い。

2003 年にオープンした東京・新宿二丁目のコミュ
ニティセンター akta など、かなり早い時期から講
演会やニュースレターのインタビューなどに応じて
HIV 治療の最新情報やエイズ対策の考え方の変遷な
どを語る機会があり、いつしか「愛吉」が「ラブ吉」
になった。それだけの信頼関係が、研究者である岩本
さんと HIV 陽性者を中心にしたコミュニティの間で
時間をかけて構築されていったからだろう。

つまり、地道な努力の結果、などといった説教
じみたことをおじさんは書きたくなくなってしまうのだが、
長丁場のパンデミック対策では、「地道」だとか「努力」
だとかといった重々しい語感をさらっと抜け出して
いく軽快さも時に必要になる。そして、そのあたりの「遊
び心」を求める心理も、岩本さんに対する「ラブ吉先
生」という愛称には込められていたのではないかな。厳
しい状況が続く中で、そんなことも個人的には思う。

[北海道室蘭市立星蘭中学校] (下)

全校生徒に伝えたい！ 授業に込めたメッセージ

北海道室蘭市立星蘭中学校では、道徳の授業の一環として、10年前から全学年が学ぶ性に関する授業に取り組んでいる。実践の中心となっているのは、米森敏恵養護教諭。指導案は性の講話会の講師である2名の助産師とともに組み立てているという。前回紹介した1年生の授業に続き、今回は2年生、3年生の授業を紹介する。

さまざまな角度から「性」を考える

全学年が学ぶ「生と性を考える」授業。令和3年度、2年生は「自分らしさを大切にしよう」をテーマに、性に関する諸問題、男女交際について考える。

米森養護教諭によると、2年生の授業は例年かなり盛沢山な内容になるという。

「1年生と3年生の授業内容は、毎年ある程度確定していますが、2年生の基本となるテーマは『思春期の心と体』です。講師である高村さんと話し合いながら、そのときそのときで性に関する新しい問題を取り入れていきます」。

今年度は、ジェンダーによる性差別や性に関わる諸問題（多様な性など）、性の情報と性被害を学び、「対等な関係について考える」ワークを行った。

「授業の最初に生徒たちにピンクとブルーの紙を配って『それぞれの紙に、男らしさ、女らしさでイメージする言葉を書いてみて』と伝えます。どちらの紙に書くという指示はいっさい出しません。それなのに、生徒たちは毎年申し合わせたように男らしさについてはブルーの紙に書き、ピンクの紙には女らしさについて書いてきます。1、2枚違うこともあります。毎年、だいたい同じような結果になります」と米森養護教諭。

例えばブルーの紙に書かれた「男らしさ」からイメージする言葉は「すぐ泣かない」「力強さ」「カッコいい」「勇ましい」「強!!!」「たくましい」「守ってくれる」といった言葉。

一方ピンクの紙に書かれた「女らしさ」のイメージは「おしとやか」「裁縫が得意」「きれい好き」「オシャレ

室蘭市立星蘭中学校
学校長 笹森 恭之
全校生徒数 126名
教職員数 23名

(2021年4月現在)

が好き」「やさしい」「お上品」といった言葉が連なる。

講師の高村泰子さん（思春期相談士・助産師）は、生徒たちが書いた言葉を紹介しながら「でも、例えば『力持ち』の言葉に男らしさのイメージがあるのだとしたら、女の人でも力持ちはいないのかな？」そんな問いかけから、「男らしさ、女らしさってなんだろう」と生徒たちに問いかける。

授業の全体テーマは「自分らしさを大切にしよう」。授業は、性のあり方は多様であること、多様な性の話から性情報と性被害の話へ、デートDVの話へとつながっていく。

2年生のワークは「対等な関係を考える」。「自分と部活のどっちが大切なんだよ（表1）」という会話例を示し、生徒たちに相手を尊重する会話を考えてもらう。

毎年違う会話例を出すそうだが、今回は男女の枠をはずして男同士、女同士の会話でも当てはまるようにつくったという。

生徒が書いたワークを見せてもらうと、相手を尊重する会話として「私」を主語にして、自分自身がどう感じているかを伝える「アイ（私）メッセージ」で書いている生徒が多いのに驚かされる。

「新型コロナウイルス感染予防の観点から2年生のワークも個人で考えてもらいましたが、コロナ前はどんな会話がよいかグループごとで考えて、生徒同士盛り上がっていました。今年はそれがなくなりがちょっと

表1 自分と部活とどっちが大事なんだよ
(2年生の授業より)

- B 日曜日、久しぶりに遊ぼうよ。
A うーん、悪いけど その日部活なんだよね。
B 部活なんてさばればいいじゃん。
A でももうすぐ試合が近いから。やっぱり行かないと。
B 何考えてんだ！ 自分と部活とどっちが大事なんだよ！
A ……この試合、大事な試合なんだ。ぜったい落したくないんだよね。
B どうせ勝手っこないよ。行くのやめなよ。
A ……。そんなに言うならやめるよ。

★「相手を尊重する」会話に変えてみよう

- B 日曜日、久しぶりに遊ぼうよ。
A うーん、悪いけど その日部活なんだよね。
B 部活なんてさばればいいじゃん。
A でももうすぐ試合が近いから。やっぱり行かないと。

◆以下、生徒の回答◆

- B ごめんなさい。試合が近いなんてことを知らなかった。「さばればいいじゃん」とそんなありえないことを言ってごめん。
A こちらこそごめん。本当は遊びたいけど試合だから、また今度遊ぼう！
B うん、そうだね！
A じゃあね。☆

寂しいですね」と米森養護教諭は語る。

授業に込めたメッセージ

3年生の授業は、1年生でやった命の誕生から始めて、助産師の仕事、避妊のこと性感染症のことなどを正しい知識をもつことの大切さとともに生徒たちに伝えていく。

「そうして、困ったことがあったら1人で悩まず、SOSを出してください。必ず君たちを助けてくれる人がいます」と生徒たちに呼びかける。

周囲に助けを求める勇気を持ちなさいという呼びかけは、1年生、2年生の講話の中でも必ず毎年行われる。全学年を通して、米森養護教諭が生徒たちに伝えたいことは「とにかく、生きて。生き延びてほしい」

表2 学年別指導計画

学年	主 な 内 容
1年	助産師として「誕生」に関わる中で感じること ○誰もがもっている「生きようとする力」 ○「いのち」のイメージを広げるワーク
2年	性に関する諸問題・男女交際 ○ジェンダーによる性差別や性に関わる諸問題 ○性の情報と性被害 ○「対等な関係」について考えるワーク
3年	危機を乗り越えるために必要なこと ○正しい知識を持つことの大切さ(性感染症) ○助けを求める勇気を持つこと

【授業の感想】

- ・人はそれぞれ個性があって、物事のとらえ方も違うこと。人と違っていいこと。自分のしたいことができること。悩んでいるのは自分だけじゃないこと。
- ・みんなが平等に生きていけるようになりたい。みんなワークの「自分と部活とどっちが大事なんだよ」の尊重する会話がすごくうまくてすごくいい会話だなと思った。
- ・生きていくうえで一人一人の価値や大切にしていることを尊重していくことの大切さを学べた。人それぞれいろいろな生活や考え方があり、それを認めていこうと思った。
- ・セクシュアリティについて少し知っていたけど、今日はもっと知ることができてよかった。もっと詳しく知りたいと思った。みんなの意見がたくさん聞けて面白かった。
- ・人とかかわりあいを学べたのでよかった。今からでも大人になっても使えることなのでよかったです。
- ・自分が思っている気持ちを伝えることが苦手だから、この話を聞いて勇気を持てた。

ということ。

それまでも外部講師を招いて性の講話会を行っていたが、東日本大震災をきっかけにより深く「命」や「生きる」ことを考えさせる『生と性を考える』授業を行うようになったという。

「生きていく中ではいろいろなことがある。気持ちが折れそうになるときもあるじゃないですか。それでも周囲のいろいろな人の知恵や助けを借りながら、生き延びていけと。それが生徒たちに一番伝えたい私のメッセージなのです」と米森教諭は授業に込めた思いを語ってくれた。

(取材・文 エム・シー・プレス 中出三重)

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

「わきましろ」の呪いを蹴っ飛ばせ！

原題は“Shrill (シ ril)”——時は2016年、米国ではヒラリー・クリントンを破り、トランプ大統領が当選した選挙の最中に執筆された。「甲高い声」を意味するシ rilは、「身の程知らず」で「生意気」な女性（ヒラリー）への反感や拒絶、罰を表すものとして使われた言葉だ。性差に基づく侮辱は、しかし、大統領への大志を抱く女性に向かうだけではない。世の中は、女性への侮蔑と攻撃に満ちている。本書は、幼少期から「太った体」への偏見にさらされてきた1982年生まれのリンディが、体型だけでなく、あらゆる多様性を否定しようとする社会にNoを言う自伝的エッセイである。

「巨大」なサイズで生まれた彼女は、「自分を小さく見せる」ようになる。おこがましくならないように、人生そのものを小さくしながら。でも、そんなふうに心を殺さなくてもよいのだとリンディは語る。たくさんの失敗や傷つきに落ち込みながらも、そんな自分にあきれて、もう笑うしかないような体験を重ねながら、人生は進んでいく。コメディアンでもある彼女が披露してくれるエピソードは、どれもユーモアに満ちていて、読んでいると私自身の痛みにも苦笑いできるくらいになれるほどパワフルだ。

しかし、ジャーナリストとして活躍し始めたリンディは、体型をネタにした誹謗中傷にさらされる。インターネットトロール（怪物）と呼ばれる嫌がらせや暴力をする人々からの執拗な攻撃。そこには、「お前をレイプしてやる」「レイプされる心配なんかない」というファットフォビア（肥満への恐怖・嫌悪）とミソジニー（女性嫌悪・蔑視）が混在した性暴力があり、何重にも重なる差別がある。

こうしたレイプ・ジョークは、日本の社会でもいくらかもある。「分別のある人ならジョークだと感じとれ



わたしの体に 呪いをかけるな

リンディ・ウェスト著、金井真弓訳
双葉社
定価 2530 円（税込）

る」「ユーモアを解さない女性が言い立てていること」という言説は、性暴力の現実を虚構のネタにして、被害者を笑うものだ。トロールは、インターネット社会が生んだものではなく、彼らに活躍の場を与えたにすぎない。女性の人生を小さくする社会の根底にあるミソジニーの問題がはっきり見えてくる。

あまりにも大きな社会の課題がある。けれど、リンディはFBIに相談し、会社に掛け合い、ついには書き込みをした男性と対面する。「トロールが普通の人だとわかったことは恐ろしかった」と、彼女は書き込みよりも恐ろしい現実を見る。“匿名の見知らぬ人たちに充足感を与えるつもりはないが、彼らの人間性を見失うことはするまい”と考えた彼女は、Noと言い続けることで世界を築く決意をする。

本書のテーマは、ルッキズム（外見至上主義）だけではない。「ヴァギナが月に一度、チョコレート・ファウンテンと化して（失礼）、パンツを殺人現場さながらにしてしまう」なんていうリアルな月経の話、親知らずを抜くのと同様に「通常の医学的処置だった」という中絶体験。女性の性についての赤裸々なトークは、「私も」「私は」という新たな声を引き出すはずだ。みんな違うはずのからだや性に対する考えについて、私たちは語ることもなければ、聴くこともない。

日本語版の真っ赤な表紙とイラストは、インパクト十分。日常生活やメディアに溢れる「呪い」に対してNoを表明するエネルギーに溢れている。拡声器を握って叫ぶリンディの写真が使われている原著の表紙の方が、彼女の勇ましくも明るいパワーが伝わって私の好みなのだが、「太った女の写真」は日本の書店に並べにくいのだろうか。

「勇敢になれ、そして甲高い声をあげよう」という彼女のメッセージは、私たちが変わり、社会を変えるものになるはず。社会が作った境界を蹴っ飛ばせ！

（大阪大学大学院准教授 野坂祐子）

主催：北東北性教育研修セミナー実行委員会
協賛：一般社団法人日本児童教育振興財団内
日本性教育協会

北東北性教育研修セミナー2022春

『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』を知る ー包括的セクシュアリティ教育 実践のために

ジェンダー平等や性の多様性を含む包括的セクシュアリティ教育は、あらゆる人の性の権利(セクシュアル・ライツ)だと考えられています。国連教育科学文化機関(ユネスコ)が中心となり2009年に作成された『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』は、2018年に第2版に更新されました。北東北での包括的セクシュアリティ教育の実践にむけて、第2版の日本語共訳をされた渡辺大輔さんを講師にお迎えして、最新版ガイダンスについて、基礎から分かりやすく解説していただきます。性教育にたずさわる方、関心のある方など、多くのみなさまのご参加をお待ちしております。



日時 2022年3月21日(月・祝日) 10:00～12:00

場所 オンライン (Zoom配信・録画配信あり)

講師 渡辺大輔さん(埼玉大学基盤教育研究センター准教授)

略歴/ 専門は教育学(セクシュアリティ教育)。学校における包括的セクシュアリティ教育に取り組んでいる。著書『マンガワークシートで学ぶ多様な性と生』(子どもの未来社)、共著『思春期サバイバル』(はるか書房)、共編著『セクシュアルマイノリティをめぐる学校教育と支援 増補版』、共訳書『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』(明石書店)、監修書『いろいろな性、いろいろな生きかた』(全3巻、ポプラ社)など執筆多数。

参加費 北東北(青森、秋田、岩手)在住の方 無料
北東北以外に在住の方 1,000円

お申込 <https://peatix.com/event/3156327>





3月6日(日) 13:00 ~ 17:00



第13回 臨床現場のための性感染症最新情報

HIV と性感染症——予防と治療の最新情報

【主なプログラム】

13:00 ~ 13:45 開会挨拶・ショートスピーチ 北村唯一（性の健康医学財団理事長）

13:45 ~ 14:45 特別講演 神馬征峰（東京大学大学院医学系研究科教授）

15:00 ~ 15:40 講義1 「Sexual Health Clinic における曝露前 HIV 予防（PrEP）と性感染症の動向」 水島大輔（NCGM エイズ治療・研究開発センター（ACC）医師）

15:40 ~ 16:20 講義2 「HIV 感染者の Aging とそれに伴う合併症」 照屋勝治（NCGM ACC 病棟医長）

16:20 ~ 17:00 講義3 「HIV 感染者の医療とケアの変化」 池田和子（NCGM ACC コーディネーター NS）

【会場 および WEB 開催】（新型コロナウイルス感染症の動向次第で、方式を変更する場合あり）

会場：国立国際医療研究センター（NCGM）研修棟5階大会議室
（東京都新宿区戸山1-21-1）

対象：医師、医療従事者、教育関係者、その他（ご関心のある方）

定員：50名（先着順受付）（状況を考慮し変更の可能性あり） 受講料：5,000円

【申込み・問合せ先】

主催：公益財団法人 性の健康医学財団事務局 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-6 湯島堀井ビル3階

電話：03-3813-4098 FAX：03-3813-4107 URL:<https://www.jfshn.org>



3月12日(土) ~ 13日(日) WEB開催



GID(性同一性障害)学会 第23回研究大会・総会

性別違和のある人と社会との関係性を考える

新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大の影響をふまえ、大阪市中央公会堂における現地開催を断念しWEB開催とすることに決定。開催の概要は、座長を含めて登壇者のみが小規模な一所に集まって（ZOOM登壇可）、WEB配信する形態とし、開催形態・開催時期の詳細や参加登録に関しては、本ホームページ上で随時ご案内する。

【主なプログラム】

● 3月12日(土)

〈手術特別講演1〉11:50 ~ 12:50 「GIDにおける、FtM に対する腹腔鏡下 SRS 手術の導入とその検討」 卜部 諭（淡海医療センター院長特別補佐）

〈法律特別講演〉13:00 ~ 14:00 「性別移行・性別変更に伴う法的課題の現在地」 仲岡しゅん（うるわ総合法律事務所）

〈シンポジウム1〉14:10 ~ 15:40 「生徒交流会を通してトランスジェンダー生徒の思いを受け止める」

● 3月13日(日)

〈シンポジウム2〉8:50 ~ 9:50 「性腺摘出後のリスク～性腺の解剖学と機能をふまえて～」

〈手術特別講演2〉10:00 ~ 11:00 「トランス女性に対しての顔面女性化手術の手術計画と手術手技の実践——顔面骨切り術を中心に——」 渡辺頼勝（東京警察病院形成外科・美容外科）

〈シンポジウム3〉14:20 ~ 15:50 「トランスジェンダーと競技スポーツ～トランス女性選手の東京オリンピック参加を巡る議論を受けて～」

〈シンポジウム4〉16:00 ~ 17:30 「gender identity disorder から gender incongruence へ～ ICD-11 の理解をふまえて～」

【問合せ先】

主催：GID（性同一性障害）学会 大会事務局：特別非営利活動法人 関西 GIC ネットワーク事務局

URL http://www.okayama-u.ac.jp/user/jsgid/jikai_taikai.html

すぐ授業に使える

性教育実践資料集 中学校改訂版

〈主な内容〉

- 第1章 中学校における性教育（性教育を実践するにあたって／性教育の目的と意義）
- 第2章 性教育の実践（性教育の現状と実践の課題／学習指導要領における性教育の取り扱い／性教育の指導体制／指導計画の作成／性教育実施上の留意点／家庭・地域との連携／中学校の性教育の今後に向けて）
- 第3章 指導事例（各学年における指導計画と指導の流れ／8つの1年生の指導事例／6つの2年生の指導事例／6つの3年生の指導事例／7つの個別指導事例／5つの組織の指導事例）
- 第4章 参考資料（性行動経験率／性的なことへの関心割合／自慰経験率／性的関心の経験割合の推移／性へのイメージ／性感染症報告数の推移／梅毒患者報告数の推移／HIV・エイズ感染者の動向／人工妊娠中絶実施率及び推移／用語解説）

すぐ授業に使える

性教育 実践資料集

中学校改訂版



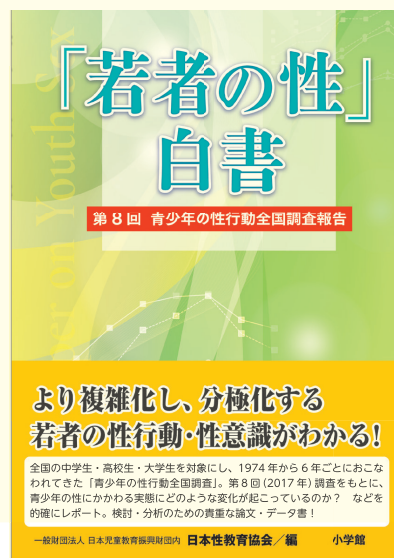
定価 2,200 円（税込） B5 判・224 ページ

「若者の性」白書

第8回 青少年の性行動全国調査報告

〈主な内容〉

- 序章 第8回「青少年の性行動全国調査」の概要
- 第1章 変化する性行動の発達プロセスと青少年層の分極化
- 第2章 青少年の性規範・性意識からみる分極化現象
- 第3章 家庭環境や親子のかかわりの違いは青少年の性行動に影響を与えるか
- 第4章 知識・態度・行動の観点からみた性教育の現状と今後の課題
- 第5章 青少年の性行動と所属集団の性行動規範
- 第6章 青少年の避妊行動の実態と包括的性教育の可能性
- 第7章 性的被害と親密性からの／への逃避
- 第8章 青少年の性についての悩み
～自由記述欄への回答からみえるもの～



定価 2,420 円（税込） A 5 判・256 ページ

編／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会 発行／小学館

全国の書店にて、ご購入いただけます！